

日本銀行水戸事務所長  
稲見 征史氏



## 個人消費底堅く推移

「2024年を振り返って。」

「県内景気は一部弱めの動きはあったが、総じて見ると緩やかに回復を続けた。物価高や海外経済減速の影響を受けながらも、雇用所得環境の改善の下で個人消費が底堅く推移した。企業の設備投資の増加も貢献した。雇用所得環境が下支えた中で、個人消費と設備投資がけん引した」

—25年について。

「個人消費は物価高の影響を受けつつも、底堅く推移していくと考えている。設備投資も続くと思っている。次の賃上げもプラスに寄与するだろう。地域や業種にばらつきはあるが、海外経済が成長する下で、県内の鉱工業生産や輸出にもその恩恵が及ん

でいけることは期待できる」

—今後の重要な点は。

「茨城県は23年の工場立地動向調査で、県外企業立地件数と県内企業を含む全体の工場立地件数がともに全国1位。観光振興やインバウンド（訪日客）など誘客にも力を入れていて、資本や人を引き寄せせる施策を進めている。人手が足りなくなってきたので、成長と人手不足解消を両立できるかが課題だ。課題に前向きに取り組む、景気の改善につなげていく希望の1年になってくれれば、成長の機会は確実にある。それに応えられる生産性をどう生み出していくかがポイント。人手は限界がある。投資、工夫が大事になると思う」